

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎に気をつけましょう！

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（溶連菌感染症）は、例年「春から初夏」にかけてと「冬」に流行することが多い感染症です。現在、小豆保健所管内で流行していますので、十分な感染対策が必要です。

○保健所別定点当たり患者数（最近4週の発生状況）

【令和6年 第18週（4月29日～5月5日） ～ 第21週（5月20日～5月26日）】



●A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（溶連菌感染症）とは？

「A群溶血性レンサ球菌」による上気道の感染症です。

いずれの年齢でもおこりますが、特に学童期の小児に多くみられます。

●症状は？

2～5日の潜伏期間の後、突然 38℃以上の発熱、喉の痛み、莓状の舌などがみられます。

時に、吐き気や嘔吐を伴います。熱は3～5日以内に下がり、1週間以内に症状は改善します。

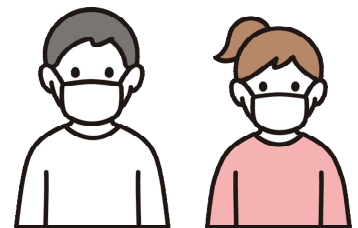
まれに重症化し、喉や舌、全身に発赤が広がる「猩紅熱（しょうこうねつ）」に移行することがあります。

症状が強いときは、早めに医療機関に相談しましょう。

●感染経路は？

①咳やくしゃみ等による『飛沫感染』

②細菌が付着した手で口・鼻・目に触れることによる『接触感染』



感染予防のポイント



- ① こまめに「手洗い」や「うがい」をしましょう。
- ② 普段から咳エチケットを心がけましょう。
- ③ できるだけ、感染者との密接な接触は避けましょう。
- ④ 十分な休養とバランスの良い食事を心がけましょう。